



平成23年3月期 第2四半期決算短信〔米国会計基準〕(連結)

平成22年10月29日

上場取引所 東 大

上場会社名 株式会社ワコールホールディングス
コード番号 3591 URL <http://www.wacoalholdings.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塚本 能交

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部長 (氏名) 大谷 郁夫

TEL 075-682-1028

四半期報告書提出予定日 平成22年11月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満四捨五入)

1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		税引前四半期純利益		当社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	85,884	5.3	6,153	62.4	5,332	78.9	2,782	34.5
22年3月期第2四半期	81,527	△9.0	3,789	△53.4	2,980	△54.9	2,068	△49.6

	1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	19.70	19.68
22年3月期第2四半期	14.67	14.66

(2) 連結財政状態

	総資産	資本合計(純資産)	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	218,503	170,246	168,344	77.0	1,190.44
22年3月期	223,387	173,553	171,630	76.8	1,215.52

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	—	—	20.00	20.00
23年3月期	—	—	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	20.00	20.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		税引前当期純利益		当社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当社株主に帰属する当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	168,000	2.9	5,600	47.0	5,100	63.3	3,200	26.8	22.63

(注)当四半期における業績予想の修正有無 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P.5「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年3月期2Q 143,378,085株 22年3月期 143,378,085株

② 期末自己株式数 23年3月期2Q 1,965,389株 22年3月期 2,179,739株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年3月期2Q 141,247,104株 22年3月期2Q 140,968,032株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後実際の業績は、様々なリスクや不確実性、その他の要因により、当社の実際の業績と大きく異なる結果となる可能性があります。これらのリスクや不確実性、その他の要因には以下のものが含まれます。

- ・経済環境の悪化により国内市場及び海外市場の景気が低迷し当社の業績が悪化するリスク
- ・国内の百貨店、量販店及びその他一般小売店の業績不振や営業政策の変更によって当社が影響を受けるリスク
- ・消費者の嗜好を的確に予測しそれに応える能力及び高品質な商品を提供する能力が期待される成果を生み出さないリスク
- ・激しい市場競争により当社の販売シェアや利益率が低下するリスク
- ・SPA（製造小売）事業ネットワークの拡大が売上や利益の拡大につながらないリスク
- ・カタログ及びインターネット販売の強化による売上増加が達成できないリスク
- ・販売不振による在庫の増加が業績を悪化させるリスク
- ・コスト削減が成功せず利益が減少するリスク
- ・有能な人材確保ができず人材が不足するリスク
- ・季節の天候不順の影響により業績が悪化するリスク
- ・海外事業に関連して増加するリスク
- ・買収及びその他第三者との戦略的提携等の成否に関するリスク
- ・知的財産権に関連するリスク
- ・個人情報保護や当社の機密保持に関するリスク
- ・内部統制に関連するリスク
- ・有価証券に関連するリスク
- ・自然災害、疫病の発生等に関するリスク
- ・新市場の開拓における投資の回収に関するリスク

これらの詳細については、当社の有価証券報告書または米国証券取引委員会に提出された年次報告書（フォーム20-F）をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	P. 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	P. 4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	P. 5
2. その他の情報	P. 5
(1) 重要な子会社の異動の概要	P. 5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	P. 5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	P. 5
3. 四半期連結財務諸表	P. 6
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 6
(2) 四半期連結損益計算書	P. 8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 9
(4) 継続企業の前提に関する注記	P. 10
(5) セグメント情報	P. 10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	P. 11
(7) 販売の状況	P. 12

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

①当第2四半期の業績概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調にあり個人消費も持ち直しつつあるものの、雇用情勢は依然厳しく、円高や株価低迷、また世界経済の減速による景気の先行き懸念などによる下振れリスクも高い状態となっております。女性ファッション衣料品業界においても、消費者の節約志向や春先の天候不順や猛暑の影響もあり、引き続き厳しい状況で推移しました。

このような経営環境のなか、当社グループは主力事業会社である株式会社ワコールを中心に、商品力の向上と消費者ニーズを的確にとらえた商品開発に注力するとともに、本年4月より新たな中期経営計画をスタートさせ、成長力強化と収益力向上への取り組みを開始しました。

その結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、株式会社ワコールの売上は前年同期を若干下回りましたが、米国や中国事業において売上が前年同期を上回ったことや、昨年より完全子会社となった株式会社ルシアンの業績が連結されたこと、株式会社七彩の売上が回復したことなどにより、売上高は前年同期を上回りました。営業利益は、株式会社ワコールにおいてコスト削減や経費の圧縮に努めたことや、海外事業の収益が改善したことなどにより、前年同期を上回りました。

●売上高	858億84百万円	(前年同期比	5.3%増)
●営業利益	61億53百万円	(前年同期比	62.4%増)
●税引前四半期純利益	53億32百万円	(前年同期比	78.9%増)
●当社株主に帰属する四半期純利益	27億82百万円	(前年同期比	34.5%増)

②オペレーティング・セグメントの営業概況

a. ワコール事業（国内）

株式会社ワコールのワコールブランド事業本部につきましては、基幹商品であるブラジャーが好調に推移し前年を大きく上回りました。特にキャンペーンブラジャー「LALAN（ララン）」の「リボンブラ」や「ぴったりブラ」そして夏用のブラジャー「スースーブラ」が前年を上回り、またワコール人間科学研究所が4月に発表した研究成果「からだのエイジング（加齢による体型変化）」に基づくプロモーション活動も奏功し、ミドル・シニア世代向けブランド「ラゼ」・「グラッピー」も前年を上回りました。新機能ボトムのスタイルサイエンス商品群は「クロスウォーカー」のメッシュタイプが好調に推移しましたが、その他商品が苦戦したこともあり、ガードル・パンツ全体では前年を下回りました。一方、夏用肌着の「スゴ衣（すごい）」は「薄い・軽い・爽やか」という商品特性が受け入れられましたが、他社商品との競争激化などの影響を受け、肌着全体では前年を下回りました。これらの結果、主力のワコールブランド事業本部全体の売上は前年同期を下回りました。

ウイングブランド事業本部につきましては、キャンペーンブラジャー「S-スタイルブラ」、「着こなしアップブラ」をはじめ、基幹商品であるブラジャー、ショーツが好調に推移し前年を大きく上回りました。スタイルサイエンス商品群は「スリムアップパンツ」が堅調でしたが、肌着については猛暑の影響や量販店、衣料品専門店のプライベートブランド商品や他社商品の影響を受け、前年を下回りました。メンズインナーは、新商品の「部屋テコ」やシニア世代向け機能商品の「HAI（ハイ）」が好調に推移しましたが、「クロスウォーカー」が前年を下回った影響が大きく、売上は前年同期を下回りました。これらの結果、ウイングブランド事業本部全体の売上は、店頭での売上は好調だったものの、得意先の在庫調整に伴い納品が進まないことやバーゲン縮小の影響もあり、前年同期を下回りました。

SPA（製造小売）事業部につきましては、直営店「AMPHI（アンフィ）」において値頃感のあるブラジャーが非常に好調に推移したことと、アウトレットモールで展開する「ワコールファクトリーストア」が順調に推移したことにより、SPA事業部全体の売上は前年同期を上回りました。

株式会社ワコールの子会社でSPA事業を行う株式会社ウナナクールでは、既存店の売上が前年を下回りま

したが、8月以降は売上も回復基調となり、新規出店の効果もあって、全体の売上は前年同期を上回りました。

ウエルネス事業部につきましては、スポーツコンディショニングウェア「CW-X（シーダブリューエックス）」が機能性に加えファッション性の高さも評価され、トレッキングスカートやプロゴルファーの石川遼選手をモデルに広告展開しているゴルフやランニング用の高機能ウェア「柔流（じゅうりゅう）」のボトムも好調に推移し大きく売上を伸ばしました。レッグ商材では、TV通販やカタログ通販チャンネルが大きく伸び、フット商材では機能性を重視したビジネスパンプス「サクセスウォーク」が、9月に行った交通広告の効果もあり、好調に推移しました。これらの結果、ウエルネス事業部全体の売上は前年同期を大きく上回りました。

通信販売事業部につきましては、カタログ販売は猛暑の影響で、秋号カタログでのアウターウェアの受注が低迷したこともあり、売上は前年を下回りました。一方、「ワコールウェブストア」として展開するインターネット販売は、話題となったインターネット限定商品の「小さく見せるブラ」の追加販売が再度話題となり、大きく売上を伸ばしました。これらの結果、通信販売事業部全体の売上はほぼ前年同期並みとなりました。

このようにウエルネス事業などは好調に推移したものの、主力事業であるワコールブランドやウイングブランドが前年同期を下回ったことなどにより、株式会社ワコール全体の売上は前年同期を下回る結果となりました。一方、利益面につきましては、売上利益率の改善や経費削減が奏功し、営業利益は前年同期を大きく上回りました。

●売上高	590億78百万円	(前年同期比	1.3%減)
●営業利益	50億32百万円	(前年同期比	51.5%増)

b. ワコール事業（海外）

海外事業（2010年1～6月）につきましては、米国事業は主要取引先である百貨店が回復基調にあるものの個人消費の落ち込みや景気減速が懸念されるなかで、シェア向上と商品展開の強化、さらに周辺国の売上拡大に積極的に取り組みました。売上面では値頃感のあるブラジャーや補整機能のあるボトム商品が好調に推移し、また、昨年度から展開しているブランド「b. tempt'd by Wacoal（ビーテンプティッドバイワコール）」も好調に推移したことなどにより、売上は前年同期を大きく上回りました。また利益面では売上の増加に加え、原価低減に伴う売上利益率の改善によって、営業利益は前年同期を上回りました。なお、当第2四半期における米ドルの為替レートは90円（前第2四半期94円）となっております。

中国事業につきましては、経済成長の鈍化、さらに労働コストの上昇など不安定要素を含みながらも、内陸部を中心とした積極的な店舗展開によって、主力のワコールブランド、若年層向けブランド「アンフィ」、高付加価値ブランド「サルート」の3ブランドとも売上は前年同期を大きく上回り、百貨店チャンネルを中心とした既存店舗でのシェアも徐々に拡大しております。利益面では売上利益率向上と経費低減などにより、黒字となりました。これらの結果、中国事業全体では売上、利益ともに前年同期を上回りました。

●売上高	135億86百万円	(前年同期比	5.9%増)
●営業利益	11億69百万円	(前年同期比	45.0%増)

c. ピーチ・ジョン事業

株式会社ピーチ・ジョン（2010年3～8月）につきましては、通信販売は、コスメ系のビューティカタログ「GJ」は好調に推移したものの、春号以降、夏・秋号ともに受注が低迷したことにより、売上は前年同期を下回りました。また、国内直営店の売上は、前年同期に比べて店舗数が減少したことやカタログ発行時の売上が伸び悩んだこともあり前年同期を下回りました。海外直営店は香港に出店している2店舗が堅調に推移しており、8月に上海にオープンした店舗も順調な滑り出しをしました。しかしながら、国内事業の低迷の影響が大きく、ピーチ・ジョン事業全体の売上は、前年同期を下回りました。利益面ではカタログ発行部数の削減や広告媒体の見直しなど効率化に取り組みましたが、売上の減少に伴い営業損失が生じました。

●売上高	60億98百万円	(前年同期比 5.0%減)
●営業利益	△ 2億65百万円	(前年同期は営業損失1億44百万円)

d. その他

株式会社ルシアンにつきましては、主力のインナーウェアやアウターウェアを展開する製品事業とレース素材を扱うマテリアル事業の売上は前年同期を下回りました。一方、アートホビー事業は、刺繍糸やパッチワーク用ソーイング生地が順調に推移し、売上は前年同期を上回りました。ルシアン全体では主力の製品事業が不調だったことや前期に整理した不採算事業の売上もなくなったことにより、売上が前年同期を下回りましたが、利益面については、不採算事業の整理や経費削減が奏功し、営業利益は前年同期から改善し、黒字となりました。マネキンの製造販売やレンタル、商業施設の設計や施工を行う株式会社七彩につきましては、マネキンの製造販売が好調に推移し、マネキンレンタルや主要得意先である百貨店の売場改装工事の受注も順調だったことにより、売上は前年同期を大きく上回りました。また利益面では、経費の見直しを徹底したことで営業利益は前年同期から改善し、黒字となりました。

●売上高	134億33百万円	(前年同期比 65.7%増)
●営業利益	2億17百万円	(前年同期は営業損失1億95百万円)

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債、株主資本等の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、株価の変動による投資の減少などにより、前連結会計年度末に比して48億84百万円減少し、2,185億3百万円となりました。

負債の部は、流動負債では短期借入金や未払金の減少、固定負債では繰延税金負債の減少などにより、前連結会計年度末に比して15億77百万円減少し、482億57百万円となりました。

株主資本は、為替換算調整額や未実現有価証券評価益の変動などにより、前連結会計年度末に比して32億86百万円減少し、1,683億44百万円となりました。

以上の結果により、当第2四半期連結会計期間末における株主資本比率は、前連結会計年度末に比して0.2%増加し、77.0%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比して5億19百万円減少し、237億98百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、減価償却費やその他の負債等の増加などにより、54億73百万円の収入(前年同期に比し19億6百万円の収入増)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の増加や有形固定資産の取得などにより、21億3百万円の支出(前年同期に比し21億28百万円の収入減)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払などにより、35億34百万円の支出(前年同期に比し3億13百万円の支出増)となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

景気減速懸念も強いなか、当社グループをとりまく経営環境は引き続き厳しい状況が続くと予想されますが、環境変化への対応力を強化しつつ、当社グループならではの高品質・高機能のものづくりを通して、真の価値のある商品を継続的に展開していくことで売上規模を拡大していく考えです。

株式会社ワコールにつきましては、ワコール人間科学研究所の研究成果「からだのエイジング（加齢による体型変化）」をキーワードにした「ラブ・エイジング」プロモーションが高い評価を受けており、さらに浸透をはかることにより下着の活性化に繋げていきます。また株式会社ルシアンも含め当社グループ全体の総合力を発揮した商品展開や店舗展開を推進していきます。さらに、今後も成長が期待できるSPA事業やウエルネス事業などについても積極的な拡大を図っていきます。

海外事業に関しては、米国事業が引き続き順調に推移しております。新商品を含め商品展開をさらに強化しつつ、販売チャネルの拡張にも取り組んでいきます。中国事業は、リスクファクターが存在するものの急速に拡大しており、事業環境の変化に対応しつつ新規出店を加速し、積極的なプロモーションを展開して売上拡大を図ります。

ピーチ・ジョン事業に関しては、事業環境の変化に対応し業績を再び成長軌道に乗せるために、ビジネスモデルの転換、会社組織の改編、業務遂行方法の効率化を骨子とした構造改革を推進するとともに、中国事業を積極的に展開していきます。

一方で、円高の進行に伴う為替換算による海外事業の連結業績への影響も拡大しており、国内事業においても非常に厳しい状況が続くものと予想されます。

通期の連結業績予想数値につきましては、これらの事業環境や当第2四半期連結累計期間の業績をふまえ平成22年5月11日に発表しました連結業績予想を修正します。なお、前述の特殊要因や一過性要因による利益の変動に関しては、連結業績予想に織り込んでおります。

また、米ドルの為替レートは86円を前提としております。

●売上高	1,680億円	(前年同期比 2.9%増)
●営業利益	56億円	(前年同期比 47.0%増)
●税引前当期純利益	51億円	(前年同期比 63.3%増)
●当社株主に帰属する当期純利益	32億円	(前年同期比 26.8%増)

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

科 目	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度の 連結貸借対照表 (平成22年3月31日)	増減金額
(資産の部)	百万円	百万円	百万円
I. 流動資産			
現金及び現金同等物	23,798	24,317	△ 519
定期預金	875	—	875
有価証券	6,050	6,529	△ 479
売掛債権			
受取手形	495	469	26
売掛金	23,475	21,116	2,359
	23,970	21,585	2,385
返品調整引当金及び貸倒引当金	△ 2,070	△ 1,972	△ 98
	21,900	19,613	2,287
たな卸資産	31,834	32,103	△ 269
繰延税金資産	4,551	4,595	△ 44
その他の流動資産	2,294	2,776	△ 482
流動資産計	91,302	89,933	1,369
II. 有形固定資産			
土地	21,913	22,012	△ 99
建物及び構築物	61,218	61,585	△ 367
機械装置及び工具器具備品等	14,458	14,773	△ 315
建設仮勘定	343	103	240
	97,932	98,473	△ 541
減価償却累計額	△ 46,950	△ 46,653	△ 297
有形固定資産計	50,982	51,820	△ 838
III. その他の資産			
関連会社投資	14,239	14,769	△ 530
投資	31,200	35,828	△ 4,628
のれん	11,203	11,203	—
その他の無形固定資産	11,890	12,351	△ 461
前払年金費用	727	263	464
繰延税金資産	922	935	△ 13
その他	6,038	6,285	△ 247
その他の資産計	76,219	81,634	△ 5,415
資産合計	218,503	223,387	△ 4,884

科 目	当第2四半期連結会計期間末	前連結会計年度の	増減金額
	(平成22年9月30日)	連結貸借対照表 (平成22年3月31日)	
(負債の部)	百万円	百万円	百万円
I. 流動負債			
短期借入金	6,821	7,941	△ 1,120
買掛債務			
支払手形	1,460	2,174	△ 714
買掛金	11,168	9,161	2,007
未払金	4,454	5,975	△ 1,521
	17,082	17,310	△ 228
未払給料及び賞与	6,000	5,927	73
未払税金	2,682	2,105	577
その他の流動負債	3,286	2,400	886
流動負債計	35,871	35,683	188
II. 固定負債			
退職給付引当金	2,228	2,269	△ 41
繰延税金負債	7,647	9,380	△ 1,733
その他の固定負債	2,511	2,502	9
固定負債計	12,386	14,151	△ 1,765
負債計	48,257	49,834	△ 1,577
(資本の部)			
I. 資本金	13,260	13,260	—
II. 資本剰余金	29,378	29,366	12
III. 利益剰余金	137,113	137,155	△ 42
IV. その他の包括損益累計額			
為替換算調整額	△ 8,961	△ 7,505	△ 1,456
未実現有価証券評価益	1,429	3,669	△ 2,240
年金債務調整勘定	△ 1,615	△ 1,783	168
V. 自己株式	△ 2,260	△ 2,532	272
株主資本計	168,344	171,630	△ 3,286
VI. 非支配持分	1,902	1,923	△ 21
資本計	170,246	173,553	△ 3,307
負債及び資本合計	218,503	223,387	△ 4,884

(2) 四半期連結損益計算書

科 目	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)		増減金額 百万円
	百万円	%	百万円	%	
I. 売上高	81,527	100.0	85,884	100.0	4,357
II. 営業費用					
売上原価	38,875	47.7	41,638	48.5	2,763
販売費及び一般管理費	38,863	47.7	38,093	44.3	△ 770
営業費用計	77,738	95.4	79,731	92.8	1,993
営業利益	3,789	4.6	6,153	7.2	2,364
III. その他の収益・費用(△)					
受取利息	78	0.1	46	0.1	△ 32
支払利息	△ 60	△ 0.1	△ 55	△ 0.1	5
受取配当金	368	0.5	361	0.4	△ 7
有価証券・投資有価証券売却益 及び交換益	2	0.0	5	0.0	3
有価証券・投資有価証券評価損	△ 1,198	△ 1.4	△ 1,047	△ 1.2	151
その他の損益(純額)	1	0.0	△ 131	△ 0.2	△ 132
その他の収益・費用計	△ 809	△ 0.9	△ 821	△ 1.0	△ 12
税引前四半期純利益	2,980	3.7	5,332	6.2	2,352
法人税等	1,471	1.8	2,906	3.4	1,435
持分法による投資損益及び非支配 持分帰属損益調整前四半期純利益	1,509	1.9	2,426	2.8	917
持分法による投資損益	510	0.6	440	0.5	△ 70
四半期純利益	2,019	2.5	2,866	3.3	847
非支配持分帰属損益	49	0.0	△ 84	△ 0.1	△ 133
当社株主に帰属する四半期純利益	2,068	2.5	2,782	3.2	714

(注) 米国財務会計基準審議会会計基準書220「包括利益」を適用しており、同会計基準書に基づく前第2四半期連結累計期間、当第2四半期連結累計期間の当社株主に帰属する四半期包括損益はそれぞれ6,887百万円、△746百万円であります。

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間
	(自 平成21年 4月 1日 至 平成21年 9月30日)	(自 平成22年 4月 1日 至 平成22年 9月30日)
	百万円	百万円
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー		
1. 四半期純利益	2,019	2,866
2. 営業活動によるキャッシュ・フローへの調整		
(1)減価償却費	2,269	2,264
(2)返品調整引当金及び貸倒引当金	80	117
(3)繰延税金	△ 1,068	△ 160
(4)固定資産除売却損益	49	△ 145
(5)有価証券・投資有価証券評価損	1,198	1,047
(6)有価証券・投資有価証券売却益及び交換益	△ 2	△ 5
(7)持分法による投資損益(受取配当金控除後)	△ 147	△ 63
(8)資産及び負債の増減		
売掛債権の増加	△ 677	△ 2,533
たな卸資産の増加	△ 1,391	△ 29
その他の流動資産等の減少	844	458
買掛債務の増加(△減少)	△ 1,746	264
退職給付引当金の増加(△減少)	121	△ 215
その他の負債等の増加	1,933	1,275
(9)その他	85	332
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,567	5,473
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー		
1. 定期預金の純増減額	—	△ 903
2. 有価証券の売却及び償還収入	5,393	929
3. 有価証券の取得	△ 2,509	△ 483
4. 有形固定資産の売却収入	131	351
5. 有形固定資産の取得	△ 1,874	△ 1,405
6. 無形固定資産の取得	△ 937	△ 396
7. 投資の売却収入	—	32
8. 投資の取得	△ 544	△ 276
9. 株式交換による子会社資金の受入額	362	—
10. その他	3	48
投資活動によるキャッシュ・フロー	25	△ 2,103
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー		
1. 短期借入金の純増減額	449	△ 1,114
2. 長期債務による調達	—	200
3. 長期債務の返済	△ 160	△ 53
4. 自己株式の増減	1	257
5. 配当金の支払	△ 3,511	△ 2,824
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,221	△ 3,534
IV. 為替変動による現金及び現金同等物への影響額	348	△ 355
V. 現金及び現金同等物の増減額	719	△ 519
VI. 現金及び現金同等物の期首残高	22,939	24,317
VII. 現金及び現金同等物の四半期末残高	23,658	23,798

補足情報

現金支払額		
利息	62	56
法人税等	865	2,133
現金支出を伴わない投資活動		
株式交換による連結子会社株式の取得額	2,489	—

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

① オペレーティング・セグメント情報

前第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

（単位：百万円）

	ワコール事業 (国内)	ワコール事業 (海外)	ピーチ・ジョン 事業	その他	計	消去又は 全社	連結
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	58,951	9,510	6,416	6,650	81,527	—	81,527
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	887	3,322	3	1,457	5,669	△ 5,669	—
計	59,838	12,832	6,419	8,107	87,196	△ 5,669	81,527
営業利益（△損失）	3,322	806	△ 144	△ 195	3,789	—	3,789

当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日～平成22年9月30日）

（単位：百万円）

	ワコール事業 (国内)	ワコール事業 (海外)	ピーチ・ジョン 事業	その他	計	消去又は 全社	連結
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	57,947	10,567	6,081	11,289	85,884	—	85,884
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,131	3,019	17	2,144	6,311	△ 6,311	—
計	59,078	13,586	6,098	13,433	92,195	△ 6,311	85,884
営業利益（△損失）	5,032	1,169	△ 265	217	6,153	—	6,153

- (注) 1. 前連結会計年度末より米国財務会計基準審議会会計基準書280「セグメント報告」を適用しております。これにより、前第2四半期連結累計期間に係るセグメント情報の数値を組替再表示しております。
2. 平成22年3月期の有価証券報告書においては、七彩事業は「その他」に含めず独立したオペレーティング・セグメントとして開示しておりますが、決算短信では「その他」に含めて開示しております。
3. 各事業の主な製品
- | | |
|------------|--|
| ワコール事業（国内） | … インナーウェア（ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー）、アウターウェア、スポーツウェア、レッグニット他 |
| ワコール事業（海外） | … インナーウェア（ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー）、アウターウェア、スポーツウェア、レッグニット他 |
| ピーチ・ジョン事業 | … インナーウェア（ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー）、アウターウェア、その他繊維関連商品他 |
| その他 | … インナーウェア（ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー）、アウターウェア、その他繊維関連商品、マキヨ人形、店舗設計・施工他 |

② 地域別情報

前第2四半期連結累計期間(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア	欧米	連結
外部顧客に対する売上高	71,917	3,905	5,705	81,527
構成比	88.2%	4.8%	7.0%	100.0%
営業利益	2,617	681	491	3,789

当第2四半期連結累計期間(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア	欧米	連結
外部顧客に対する売上高	75,086	4,594	6,204	85,884
構成比	87.4%	5.4%	7.2%	100.0%
営業利益	4,586	677	890	6,153

(注) 1. 国又は地域の区分の方法は地理的近接度によっております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

アジア: 東アジア及び東南アジア諸国

欧米: 北米及びヨーロッパ諸国

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) 販売の状況

製品の種類		前第2四半期 自平成21年4月1日 至平成21年9月30日		当第2四半期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日		増減	
		金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
インナーウェア	ファンデーション ・ランジェリー	58,608	71.9	61,690	71.8	3,082	5.3
	ナイトウェア	4,814	5.9	4,334	5.1	△480	△10.0
	リトルインナー	894	1.1	855	1.0	△39	△4.4
	計	64,316	78.9	66,879	77.9	2,563	4.0
アウターウェア ・スポーツウェア等		8,082	9.9	8,739	10.2	657	8.1
レッグニット		853	1.1	880	1.0	27	3.2
その他繊維製品 及び関連製品		3,605	4.4	3,722	4.3	117	3.2
その他		4,671	5.7	5,664	6.6	993	21.3
合計		81,527	100.0	85,884	100.0	4,357	5.3